

<集計分析結果>

(単純集計版)

# 在宅介護実態調査の集計結果

～第8期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和2年10月

<沖縄市>



# 目次

|                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| 1 基本調査項目（A票）                      | [P. 1]  |
| (1) 世帯類型                          | [P. 1]  |
| (2) 家族等による介護の頻度                   | [P. 1]  |
| (3) 主な介護者の本人との関係                  | [P. 2]  |
| (4) 主な介護者の性別                      | [P. 2]  |
| (5) 主な介護者の年齢                      | [P. 3]  |
| (6) 主な介護者が行っている介護                 | [P. 4]  |
| (7) 介護のための離職の有無                   | [P. 5]  |
| (8) 保険外の支援・サービスの利用状況              | [P. 5]  |
| (9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス      | [P. 6]  |
| (10) 施設等検討の状況                     | [P. 6]  |
| (11) 本人が抱えている傷病                   | [P. 7]  |
| (12) 訪問診療の利用の有無                   | [P. 8]  |
| (13) 介護保険サービスの利用の有無               | [P. 8]  |
| (14) 介護保険サービス未利用の理由               | [P. 9]  |
| 2 主な介護者様用の調査項目（B票）                | [P. 10] |
| (1) 主な介護者の勤務形態                    | [P. 10] |
| (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況             | [P. 11] |
| (3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 | [P. 12] |
| (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識            | [P. 13] |
| (5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 | [P. 14] |
| 3 要介護認定データ                        | [P. 15] |
| (1) 年齢                            | [P. 15] |
| (2) 性別                            | [P. 15] |
| (3) 二次判定結果（要介護度）                  | [P. 16] |
| (4) サービス利用の組み合わせ                  | [P. 16] |
| (5) 訪問系サービスの合計利用回数                | [P. 17] |
| (6) 通所系サービスの合計利用回数                | [P. 17] |
| (7) 短期系サービスの合計利用回数                | [P. 18] |
| (8) 障害高齢者の日常生活自立度                 | [P. 18] |
| (9) 認知症高齢者の日常生活自立度                | [P. 19] |

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

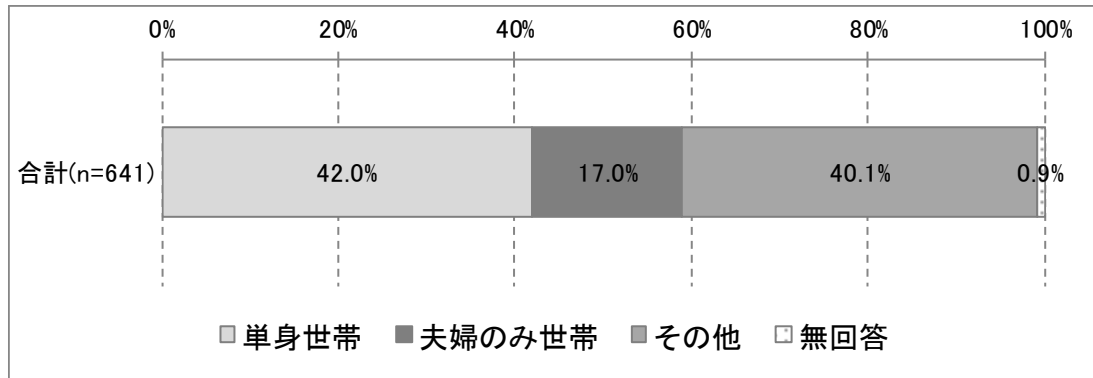


# 1 基本調査項目（A票）

## (1) 世帯類型

世帯類型の割合は、「単身世帯」が42.0%で最も高く、次いで「その他」の40.1%、「夫婦のみ世帯」の17.0%となっています。

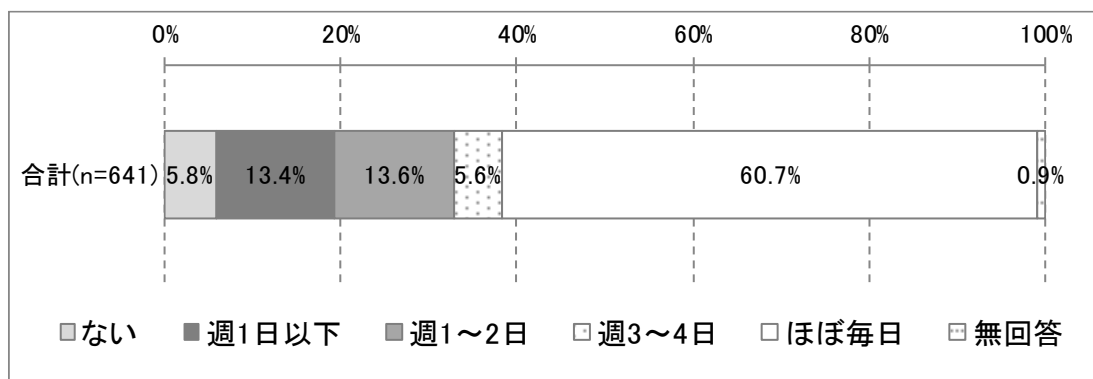
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



## (2) 家族等による介護の頻度

家族等による介護の頻度は「ほぼ毎日」が60.7%で最も高く、次いで「週1～2日」の13.6%、「週1日以下」の13.4%、「週1日以下」の13.4%、「ない」の5.8%、「週3～4日」の5.6%となっています。

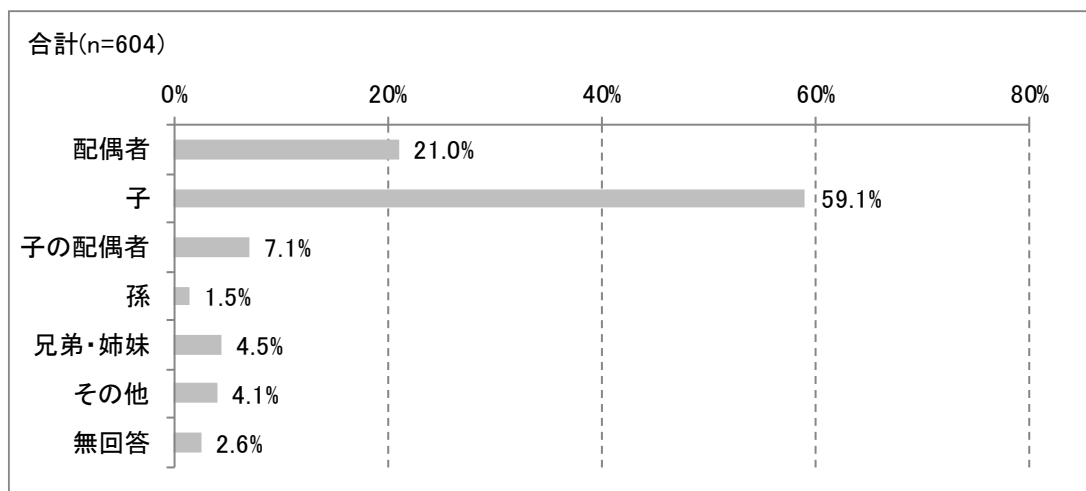
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



### (3) 主な介護者の本人との関係

主な介護者の本人との関係は「子」が59.1%で最も高く、次いで「配偶者」の21.0%、「子の配偶者」の7.1%と続いています。

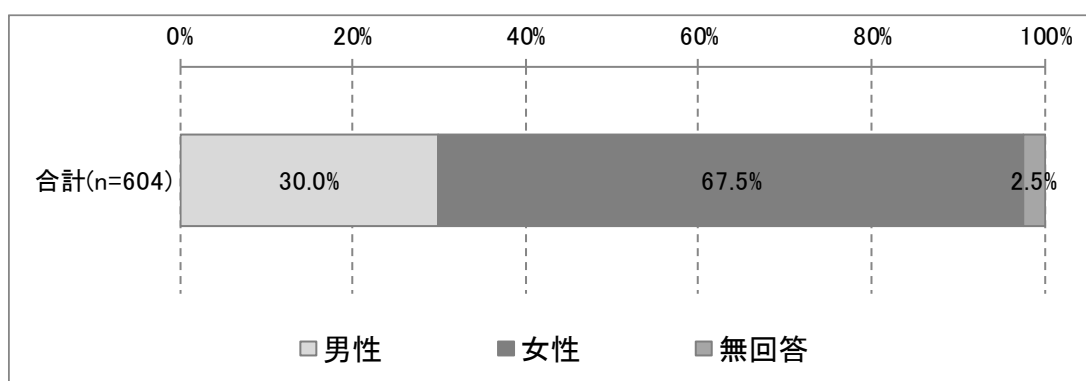
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



### (4) 主な介護者の性別

主な介護者の性別は、「女性」が67.5%、「男性」が30.0%となっています。

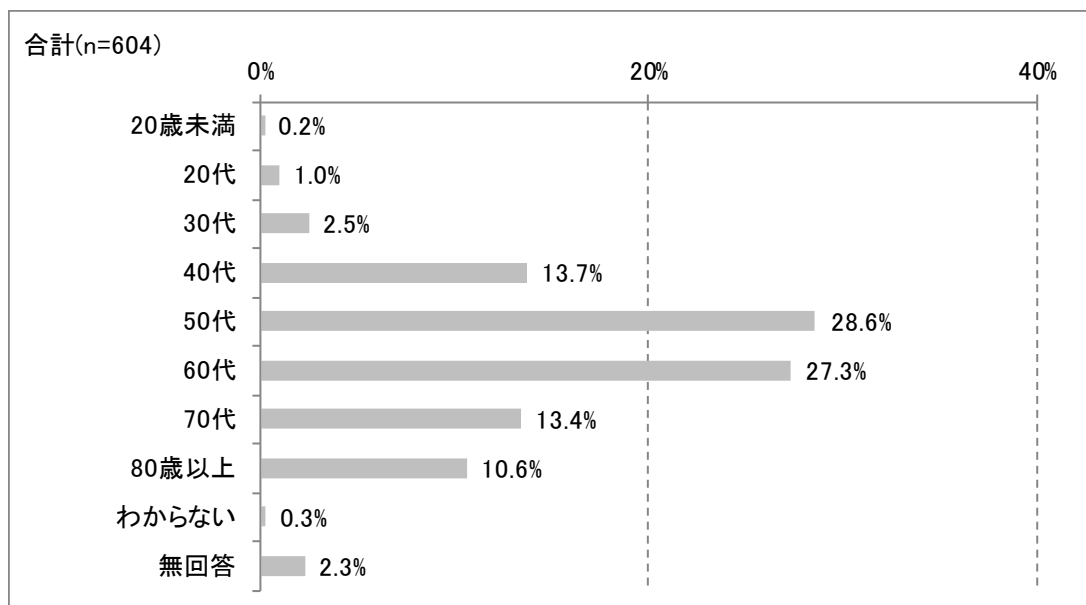
図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



### (5) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、「50代」及び「60代」の割合が高く、合わせて55.9%となっており過半数を超えています。

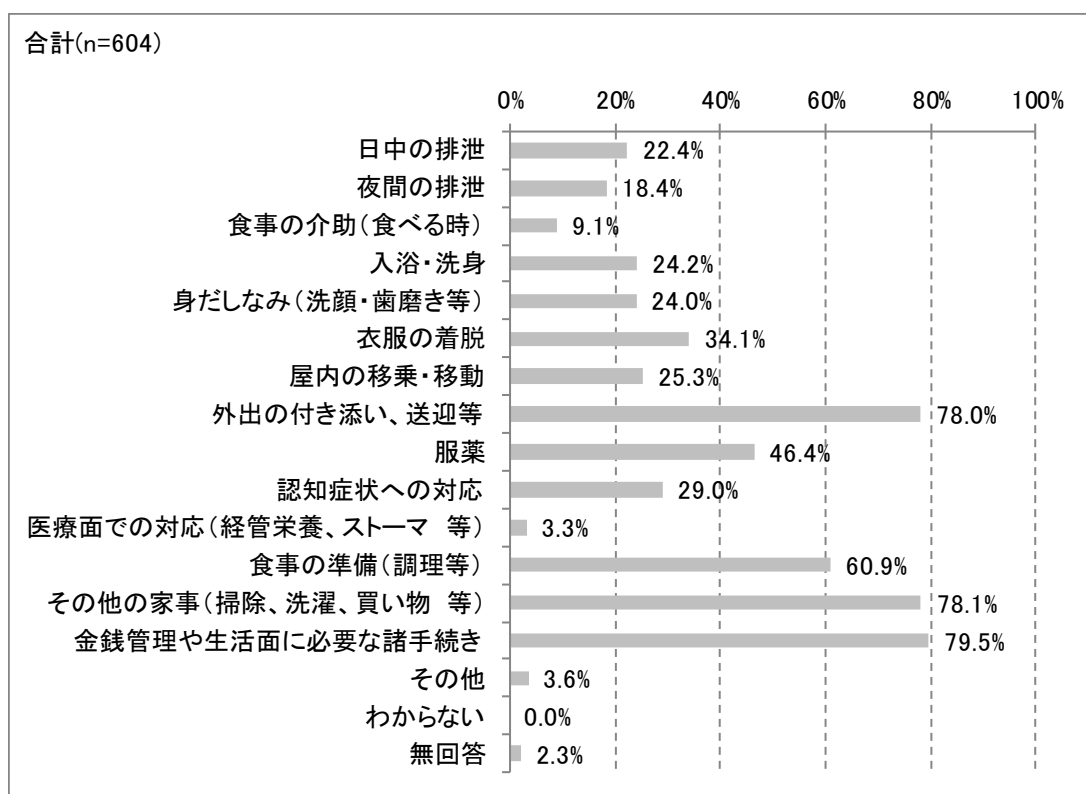
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



## (6) 主な介護者が行っている介護

主な介護者が行っている介護での第1位は「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の79.5%、第2位は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の78.1%、第3位は「外出の付き添い、送迎等」の78.0%となっており、各々約8割の高い回答割合を示しています。

図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）

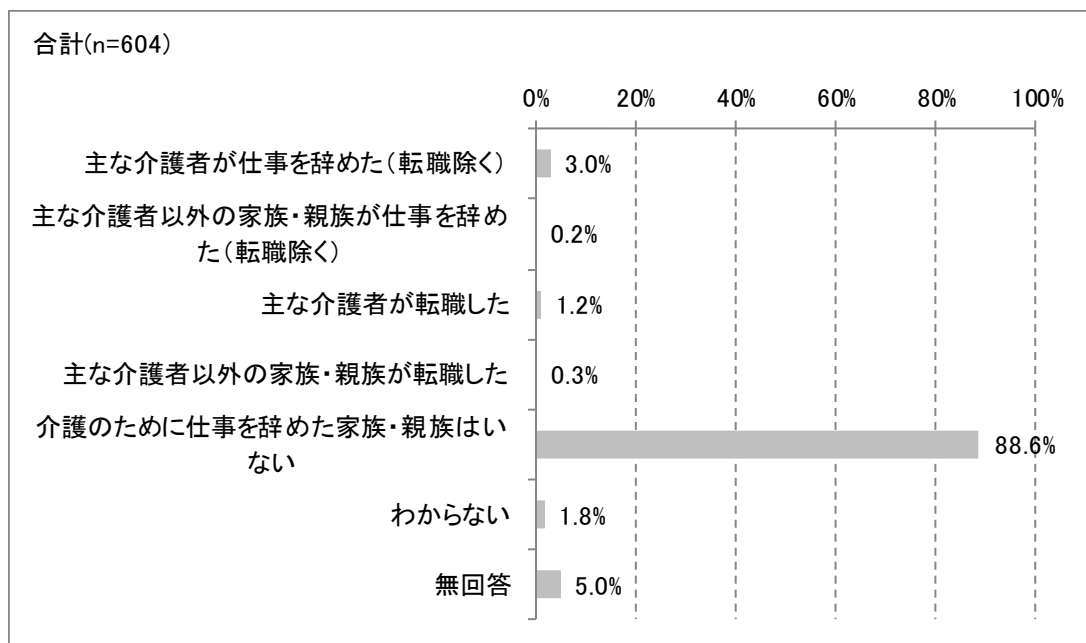




### (7) 介護のための離職の有無

介護のための離職の有無をみると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」との回答が 88.6%と突出して高い回答割合を示しています。

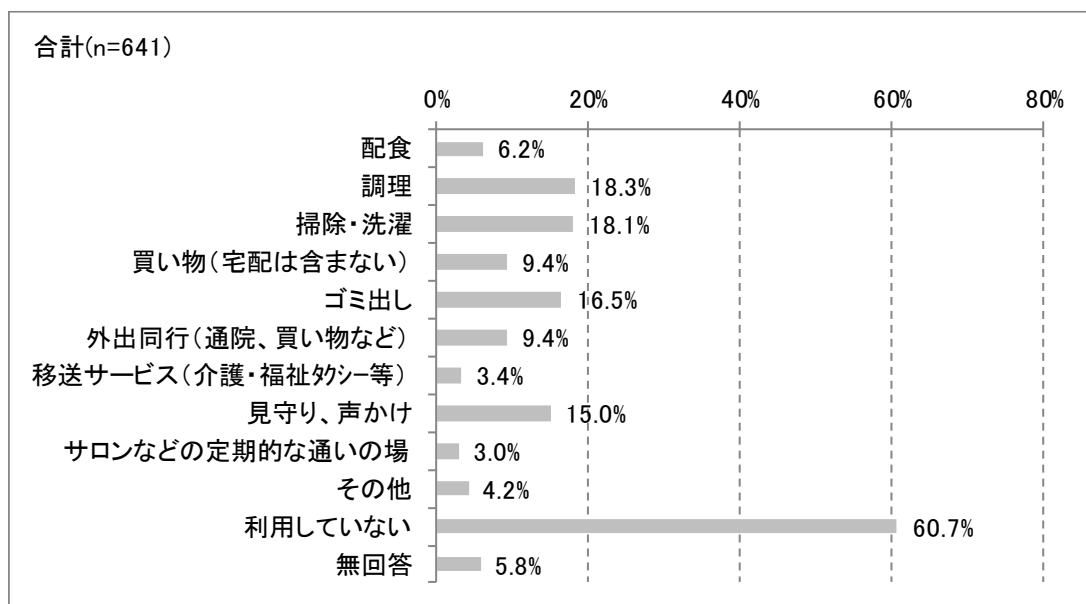
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



### (8) 保険外の支援・サービスの利用状況

保険外の支援・サービスの利用状況をみると、「利用していない」が 60.7%と過半数を超えて最も高くなっています。一方、サービスを利用しているとの回答で最も高いのは、「調理」の 18.3%となっており、次いで「掃除・洗濯」の 18.1%、「ゴミ出し」の 16.5%、「見守り、声かけ」の 15.0%と続いています。

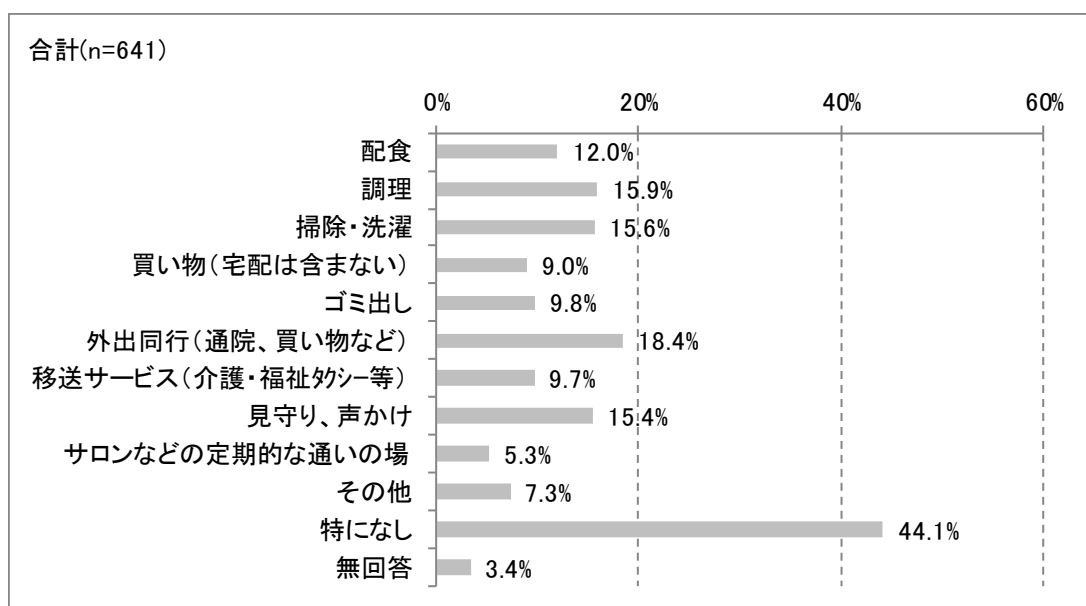
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



### (9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスをみると、「特になし」が44.1%で最も高くなっています。一方、充実を必要としている支援・サービスで最も高いのは「外出同行（通院、買い物など）」の18.4%となっており、次いで「調理」の15.9%、「掃除・洗濯」の15.6%、「見守り・声かけ」の15.4%、「配食」の12.0%と続いており、保険外の支援・サービスの利用状況と比べると「外出同行」及び「配食」の支援・サービス充実の需要が新たに望まれていると考えられます。

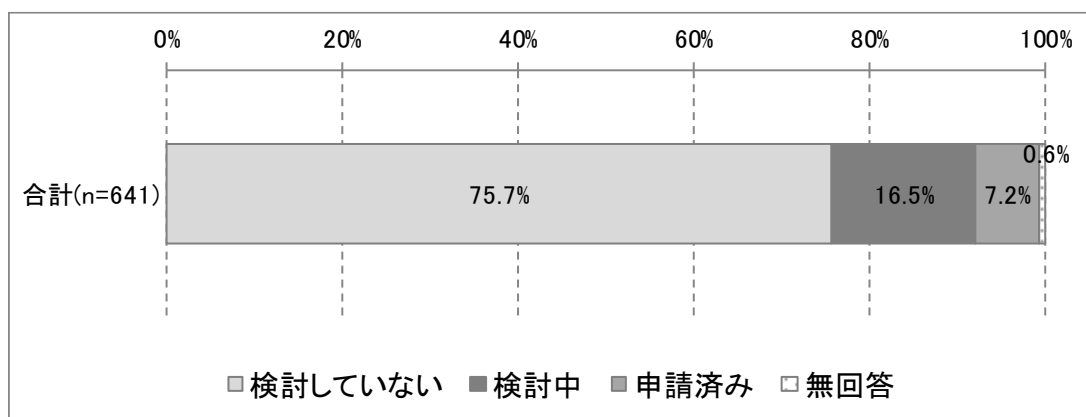
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



### (10) 施設等検討の状況

施設等検討の状況をみると、「検討していない」が75.7%で最も高く、次いで「検討中」の16.5%、「申請済み」の7.2%となっています。

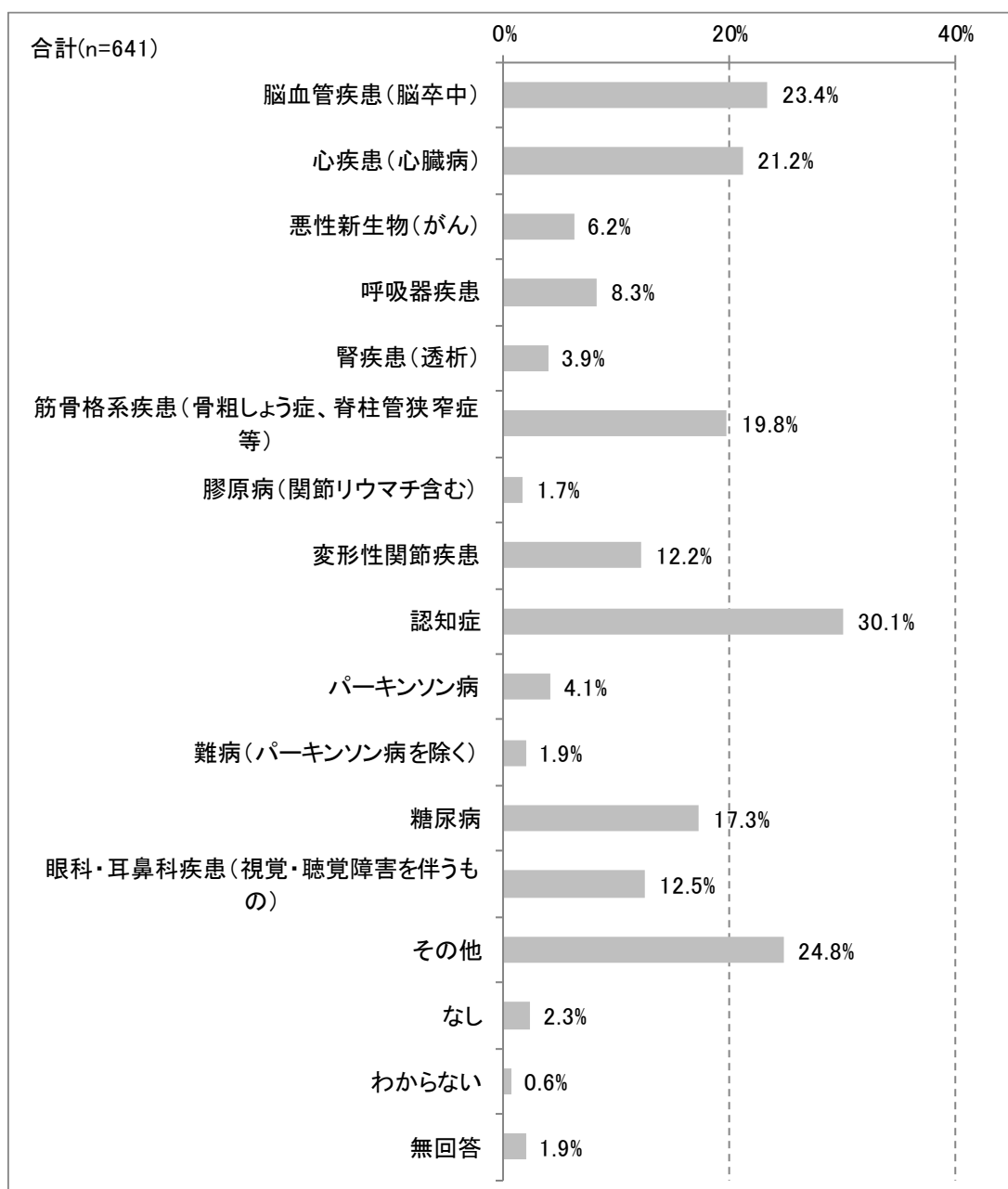
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



### (11) 本人が抱えている傷病

本人が抱えている傷病は、「認知症」が30.1%で最も高く、次いで「その他」の24.8%、「脳血管疾患（脳卒中）」の23.4%、「心疾患（心臓病）」の21.2%、「筋骨格疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の19.8%と続いています。

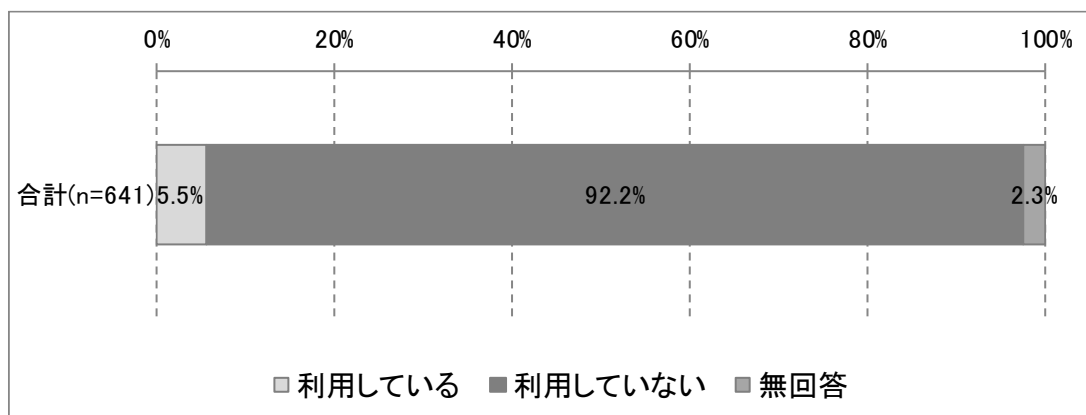
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



### (12) 訪問診療の利用の有無

訪問診療の利用の有無は、「利用していない」が 92.2%、「利用している」が 5.5%となっています。

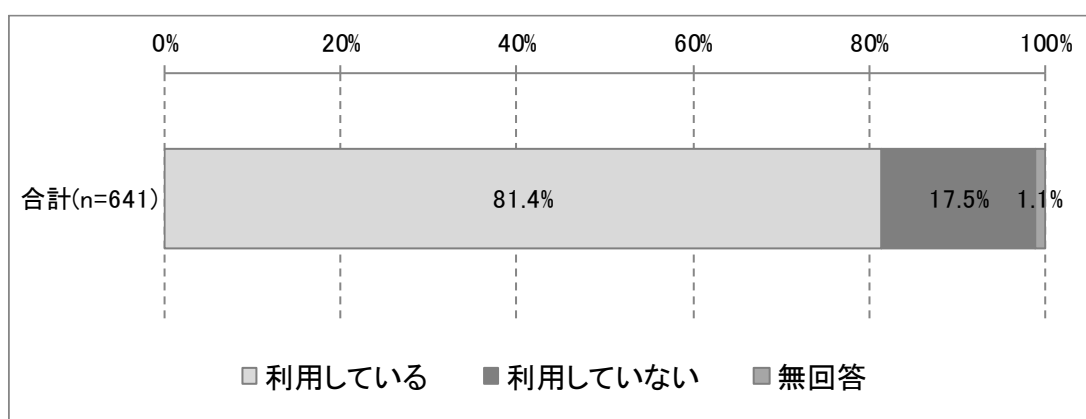
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



### (13) 介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービスの利用の有無は、「利用している」が 81.4%、「利用していない」が 17.5%となっています。

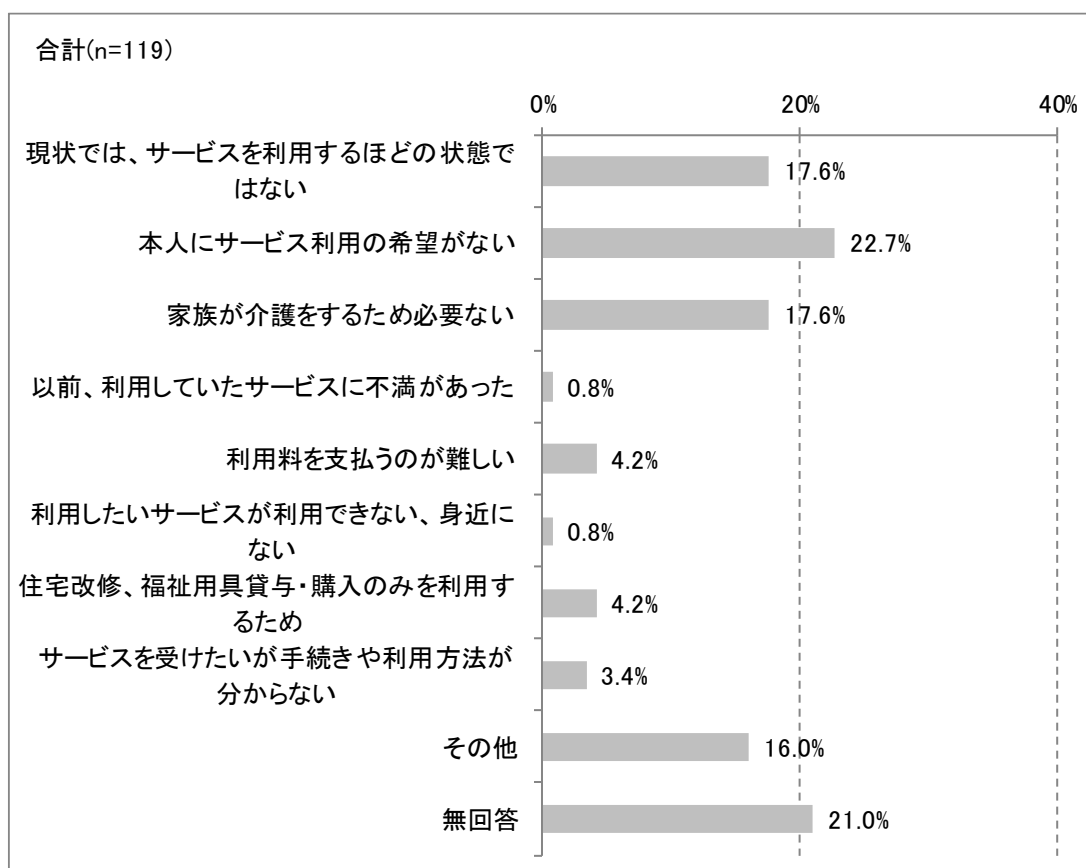
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



#### (14) 介護保険サービス未利用の理由

介護保険サービスの未利用の理由をみると、「本人にサービス利用の希望がない」が22.7%で最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」及び「家族が介護をするため必要ない」が同率の17.6%、「その他」の16.0%と続いています。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

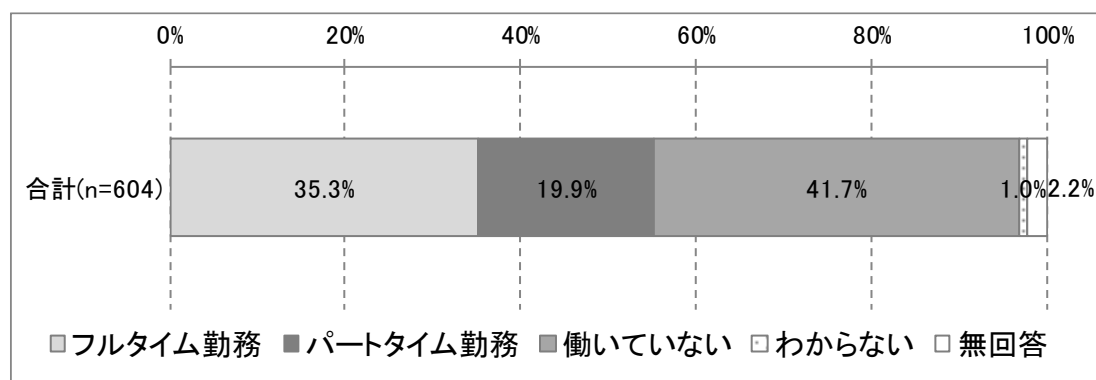


## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が41.7%で最も高く、次いで「フルタイム勤務」の35.3%、「パートタイム勤務」の19.9%、「わからない」の1.0%となっています。

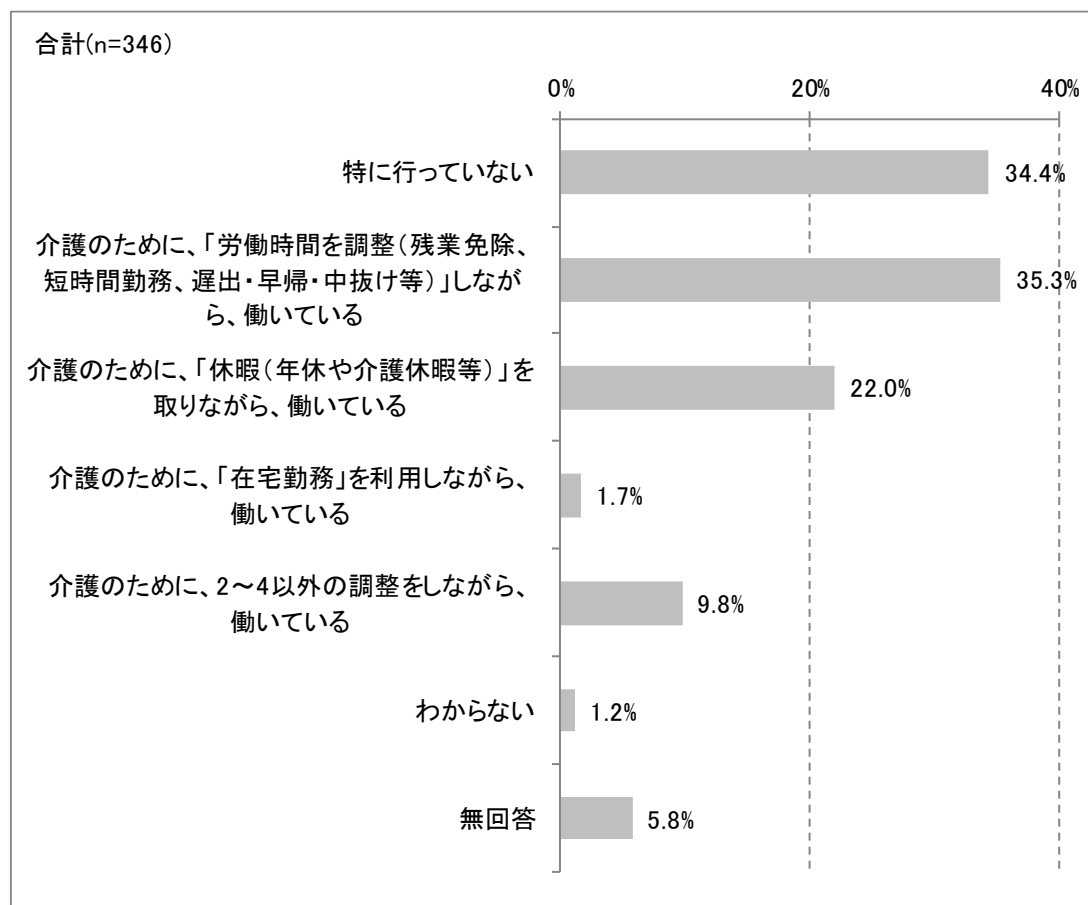
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



## (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

主な介護者の働き方の調整状況は、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が35.3%で最も高く、次いで「特に行っていない」の34.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の22.0%と続いています。

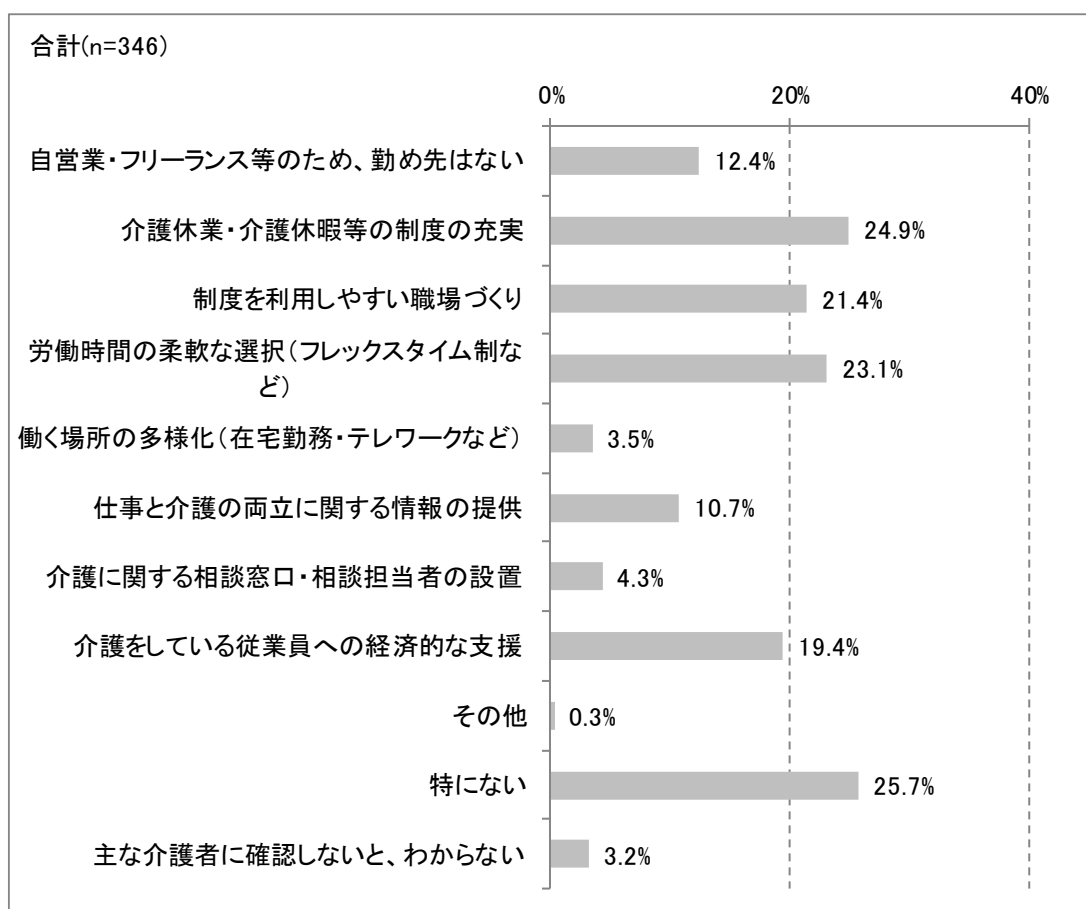
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



### (3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援は、「特にない」が25.7%で最も高くなっています。一方、効果的であると考えられる勤め先からの支援で最も高いのは「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の24.9%となっており、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の23.1%、「制度を利用しやすい職場づくり」の21.4%、「介護をしている従業員への経済的な支援」の19.4%と続いています。

図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）

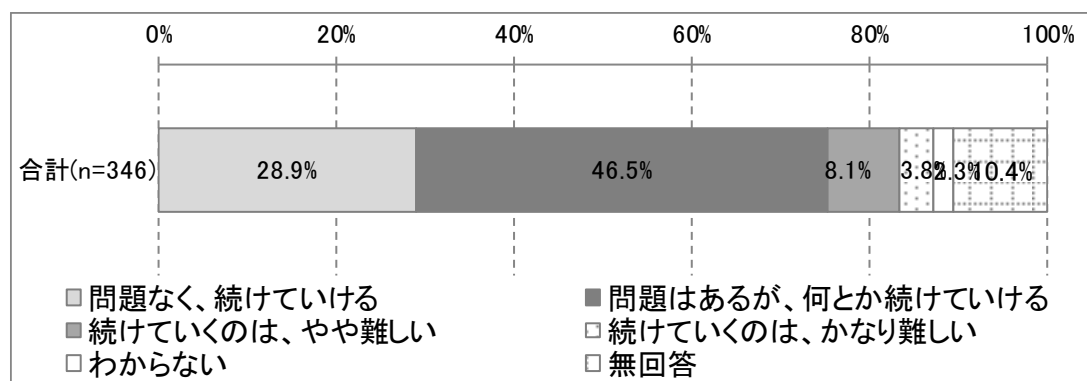




#### (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

主な介護者の就労継続の可否に係る意識は、「問題はあるが、何とか続けていける」が46.5%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の28.9%、「続けていくのは、やや難しい」の8.1%、「続けていくのは、かなり難しい」の3.8%、「わからない」の2.3%となっています。

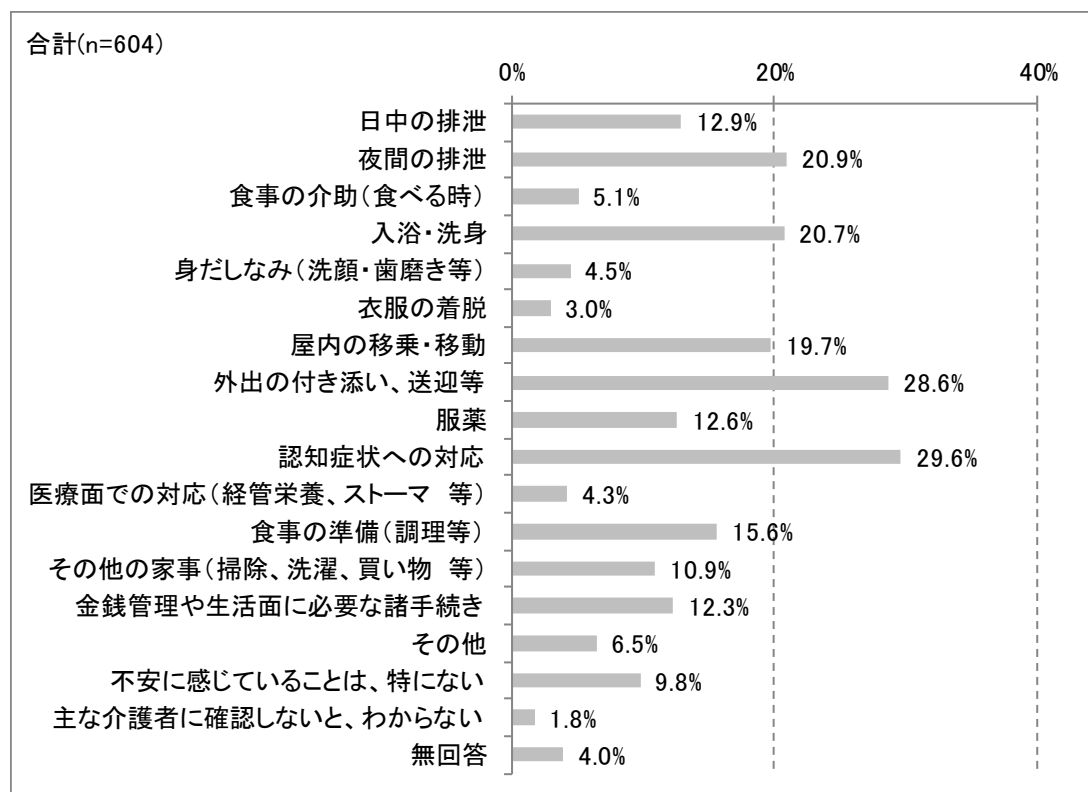
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」が29.6%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の28.6%、「夜間の排泄」の20.9%、「入浴・洗身」の20.7%、「屋内の移乗・移動」の19.7%と続いています。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

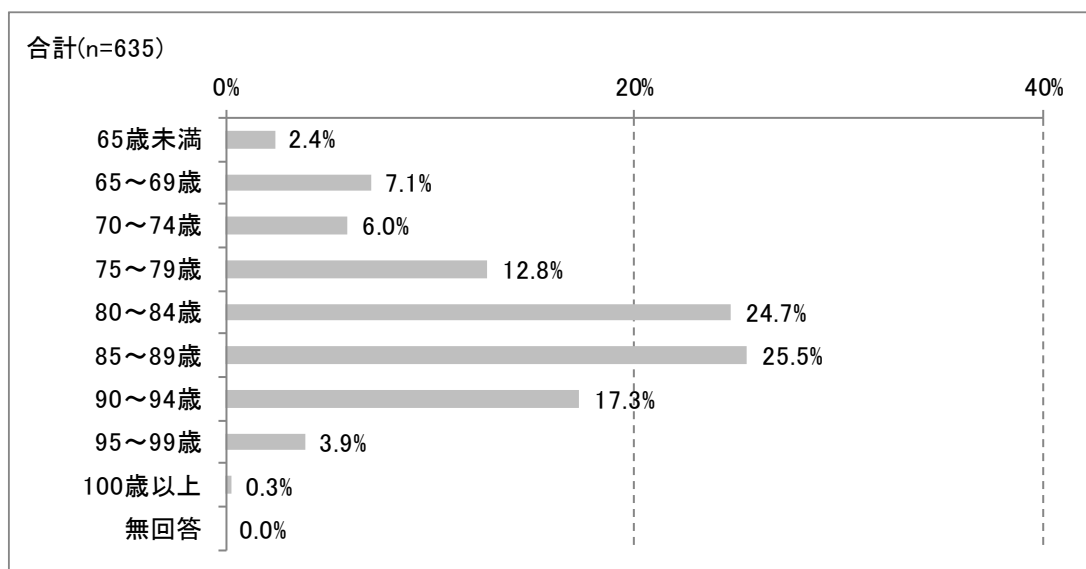


### 3 要介護認定データ

#### (1) 年齢

要介護者の年齢については、「85～89 歳」が 25.5%で最も高く、次いで「80～84 歳」の 24.7%、「90～94 歳」の 17.3%、「75～79 歳」の 12.8%と、この4者の割合が比較的高く、合わせて 80.3%と全体の8割以上を占めています。

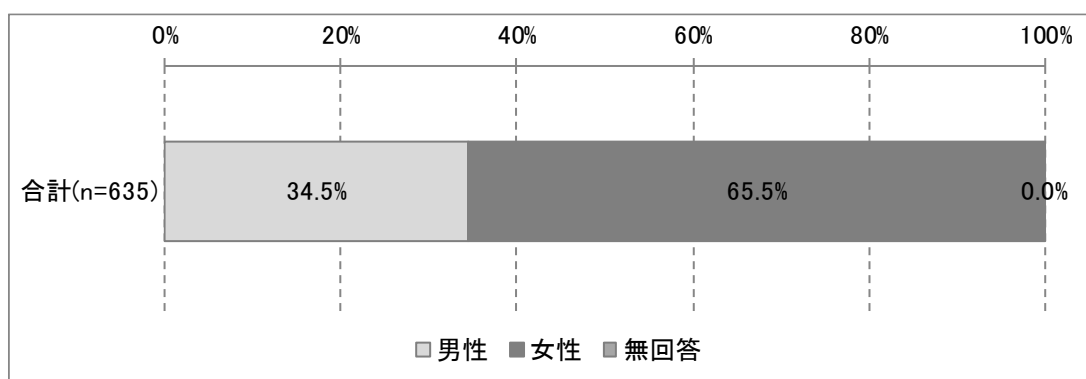
図表 3-1 年齢



#### (2) 性別

要介護者の性別については、「女性」が 65.5%、「男性」が 34.5%と、「女性」が「男性」に比べて 31.0 ポイント高くなっています。

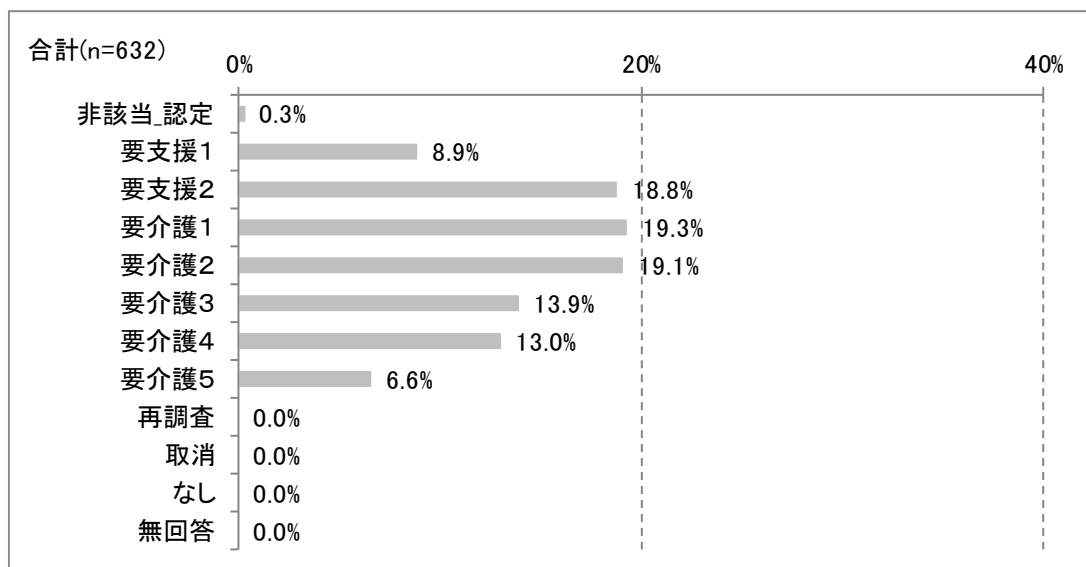
図表 3-2 性別



### (3) 二次判定結果（要介護度）

要介護度の二次判定結果については、「要介護1」が19.3%で最も高く、次いで「要介護2」の19.1%、「要支援2」の18.8%、「要介護3」の13.9%と続いています。

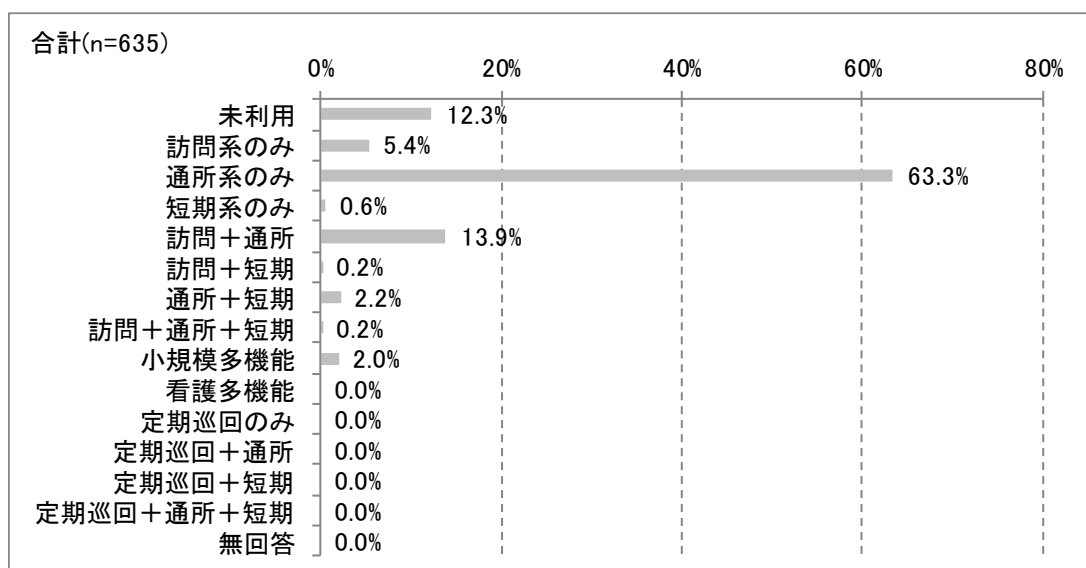
図表 3-3 二次判定結果



### (4) サービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせについては、「通所系のみ」が63.3%で他に比べて突出して高くなっています。

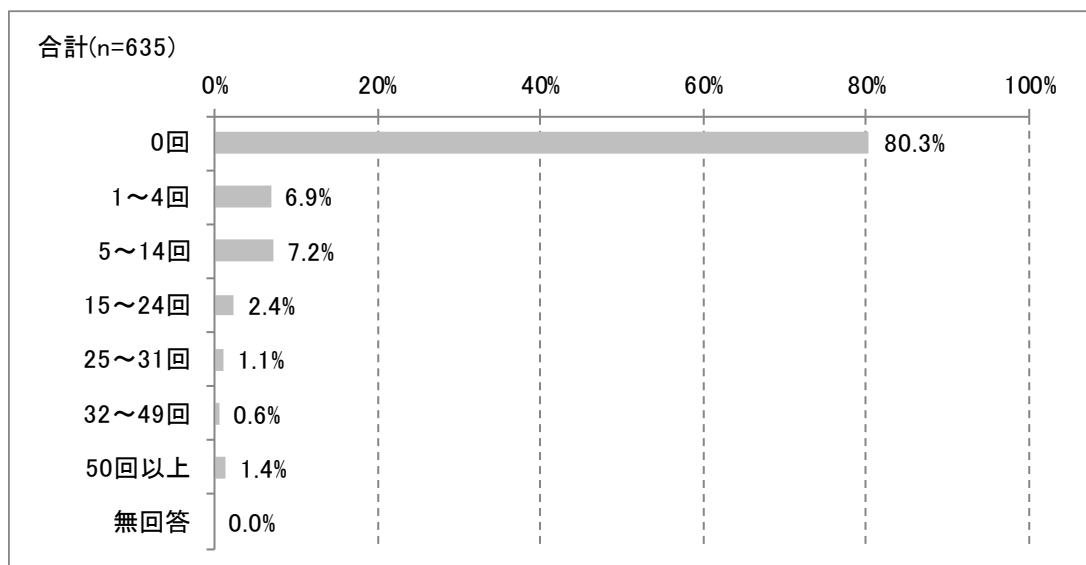
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

訪問系サービスの合計利用回数については、「0回」が80.3%と高い割合を示しています。一方、利用している場合での利用回数で最も高いのは「5～14回」で7.2%となっています。

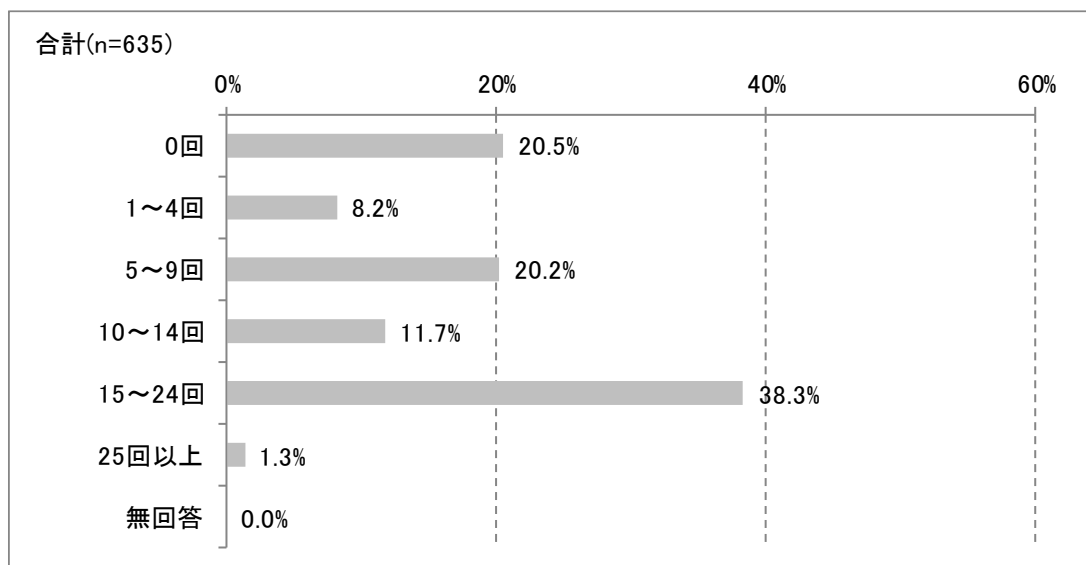
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



### (6) 通所系サービスの合計利用回数

通所系サービスの合計利用回数については、「15～24回」が38.3%で最も高く、次いで「0回」が20.5%、「5～9回」の20.2%と続いています。

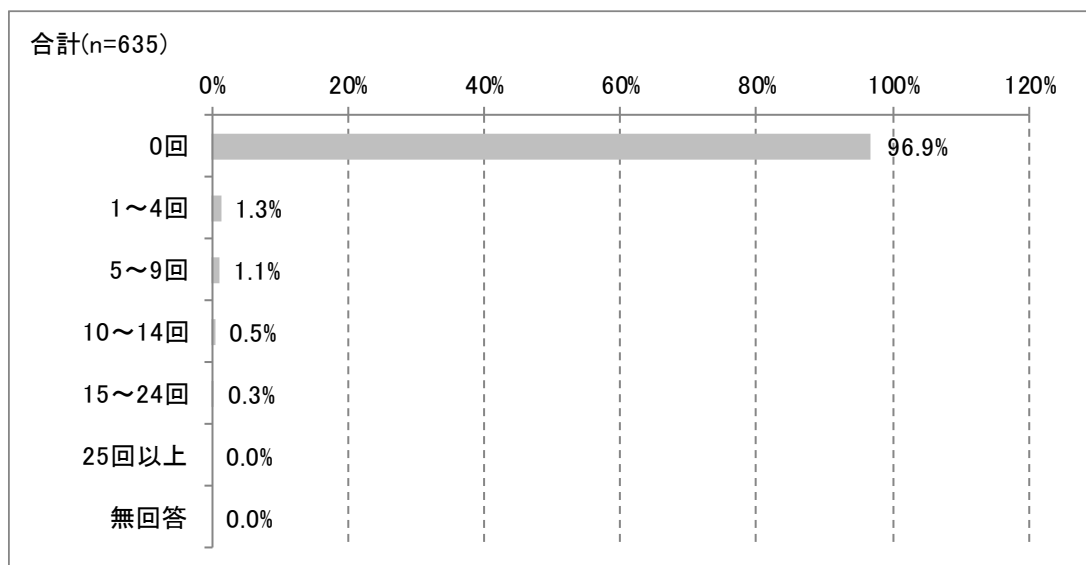
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



### (7) 短期系サービスの合計利用回数

短期系サービスの合計利用回数については、「0回」が96.9%で突出して高くなっており、短期系サービスの利用がほとんどないことが伺えます。

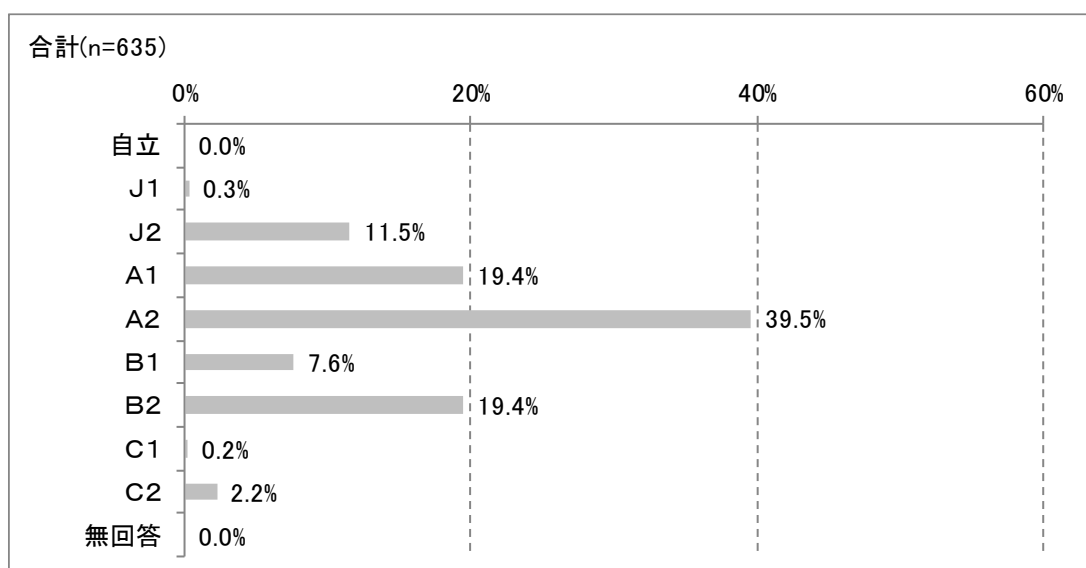
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



### (8) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度については、「A2」が39.5%で最も高く、次いで「A1」及び「B2」が同率で19.4%、「J2」の11.5%、「B1」の7.6%と続いています。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



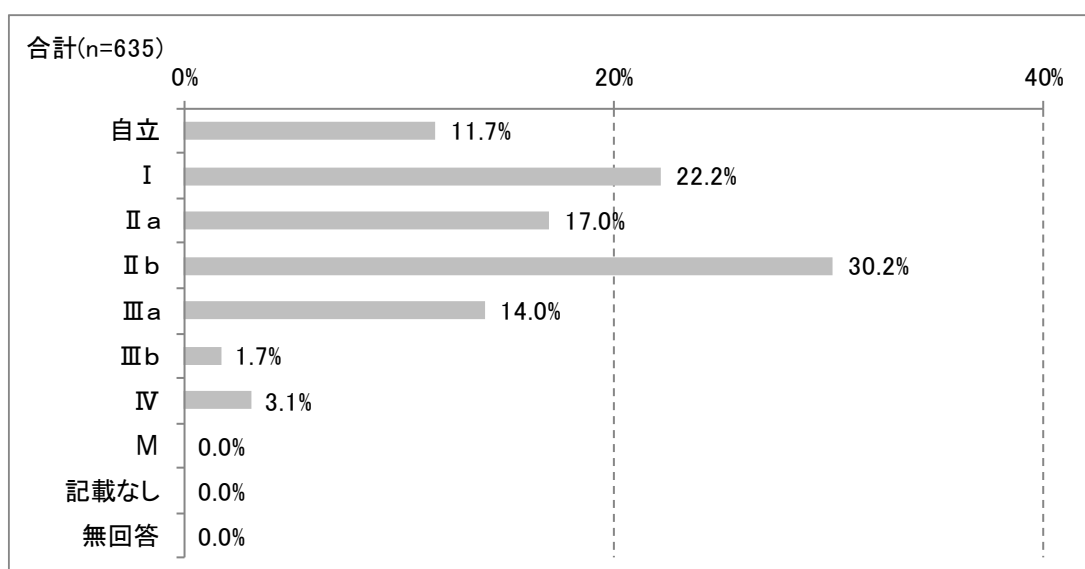
【参考：障害高齢者の日常生活自立度の判定基準】

|       |       |  |
|-------|-------|--|
| 生活自立  | ランク J | 何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する<br>1. 交通機関等を利用して外出する<br>2. 隣近所へなら外出する                            |
| 準寝たきり | ランク A | 屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない<br>1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する<br>2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている |
| 寝たきり  | ランク B | 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ<br>1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う<br>2. 介助により車いすに移乗する       |
|       | ランク C | 1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する<br>1. 自力で寝返りをうつ<br>2. 自力では寝返りもうてない                                 |

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度については、「II b」が 30.2%で最も高く、次いで「I」の 22.2%、「II a」の 17.0%、「III a」の 14.0%、「自立」の 11.7%と続いています。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



【参考：認知症高齢者の日常生活自立度の判定基準】

| ラ<br>ン<br>ク | 判 断 基 準  | 見られる症状・行動の例  |
|-------------|--|--|
| I           | 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。                 |  |
| II          | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 |  |
| II<br>a     | 家庭外で上記IIの状態がみられる。                                    | たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等   |
| II<br>b     | 家庭内でも上記IIの状態が見られる。                                   | 服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等  |
| III         | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。            |  |
| III<br>a    | 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。                               | 着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。<br>やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等 |
| III<br>b    | 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。                               | ランクIII aに同じ  |
| IV          | 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。       | ランクIIIに同じ  |
| M           | 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。              | せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等  |